

第3章

地 域 別 構 想

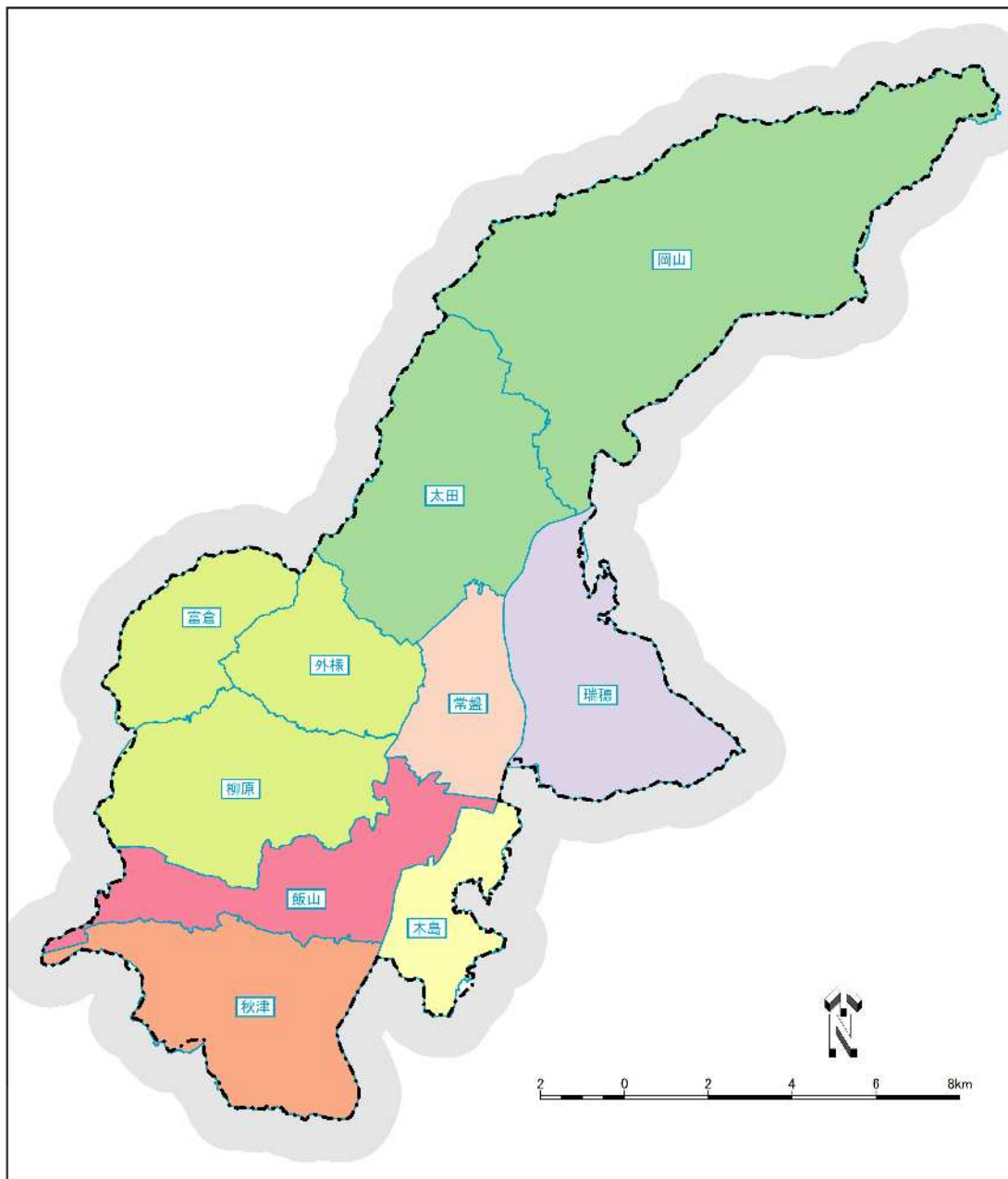
第3章 地域別構想

1 地域区分の設定

本市の地域区分は、人口や各種都市機能の集積のばらつきも多く、小中学校区でも複数の地域を跨ぐ校区設定が行われています。

このため、これまでの地域の一体性、地形条件からみた一体性、道路や鉄道の配置からみた一体性などを考慮し、各地域の特性や魅力を活かしたまちづくりを考えていく観点から、市内を7つの地域に区分しました。

図 3-1 地域区分の設定



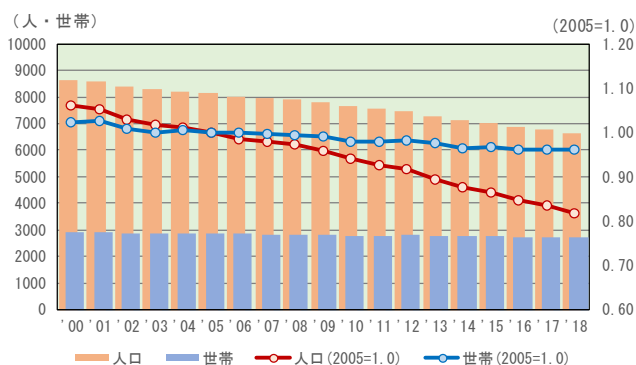
2 地域別構想

2-1. 飯山地域

(1) 地域の現況と課題

- ・本市の中心市街地が含まれる地域であり、寺町や仏壇通り、飯山城址などの歴史資源のほか、多くの観光・交流・文化施設、医療・商業・福祉関連の様々な都市機能が集積する地域です。
- ・地域西側の斑尾高原は、国内外から利用客が訪れる高原リゾート地となっており、多くのホテル・ペンション、店舗などが集積しています。
- ・地域内に市人口の31%が集中しており、平成27年時点の人口は7,040人、世帯数は2,756世帯となっています。
- ・平成17年～27年の人口増減は-13.5%、世帯数増減も-3.2%であり、市内でも人口・世帯数の減少が進んでいる地域です。ただし、平成27年時点の65歳以上人口割合は32.5%であり、市全体の中では高齢化率が低い地域となっています。

図3-2 人口・世帯数の推移

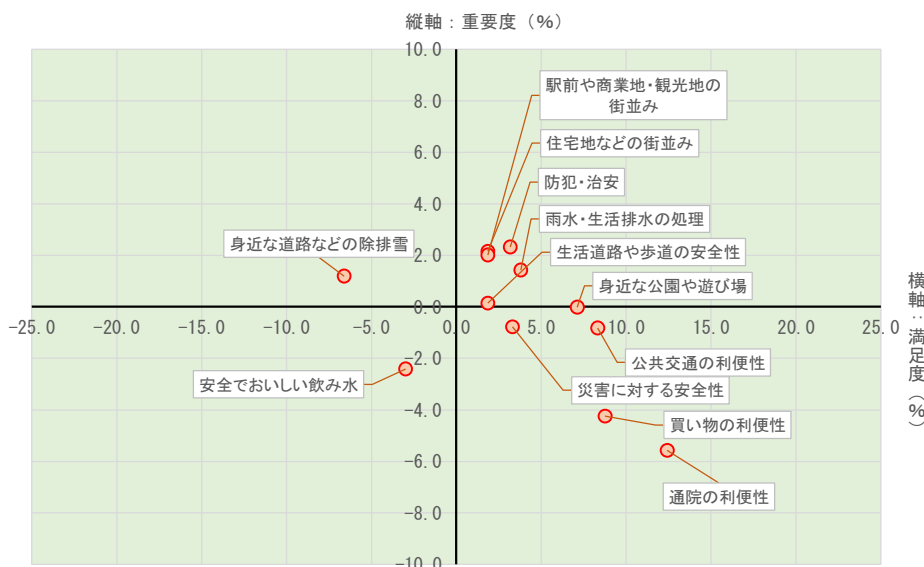


（資料：住民基本台帳人口）

(2) 地域住民意向

- ・令和元年6月に実施した市民アンケート結果では、生活環境に対する満足度が全体的に高く、特に通院や公共交通の利便性は市内で最も高い満足度となっています。
- ・また、商業地や観光地、住宅地の街並み、防犯・治安の安全性は、他地域よりも満足度が高く、今後の重要度も高くなっています。
- ・一方で、飯山地域は他の地域より身近な道路などの除排雪の満足度が低く、かつ重要度が高くなっています。

図3-3 飯山地域の生活環境に対する満足度と重要度



注：各項目の値は、満足度・重要度の市全体平均と当該地域の値との差分により算出

- ・令和元年東日本台風（台風第19号）の浸水被害を受けた飯山地域では、令和2年2月に被害当日の行動や浸水状況等に関するアンケートを実施しました。この中で、災害に対する安全性に対する満足度と重要度について、地震・洪水・土砂災害・火災の4種類に区分して再調査しました。
- ・その結果、これまで他の地域よりも災害安全性に対する満足度は比較的高かったものが、全ての災害の安全性に対して満足度が低く変化し、特に洪水に関しては、満足度が大きく低下し、重要度が大きく上昇しました。
- ・一方で、その他の災害に対する安全性では、満足度は低く変化したものの、洪水と比較すると重要度が上昇しておらず、洪水への対策が最も求められている状況が伺えます。

図3-4 被災後の飯山地域の生活環境（災害関係）に対する満足度と重要度

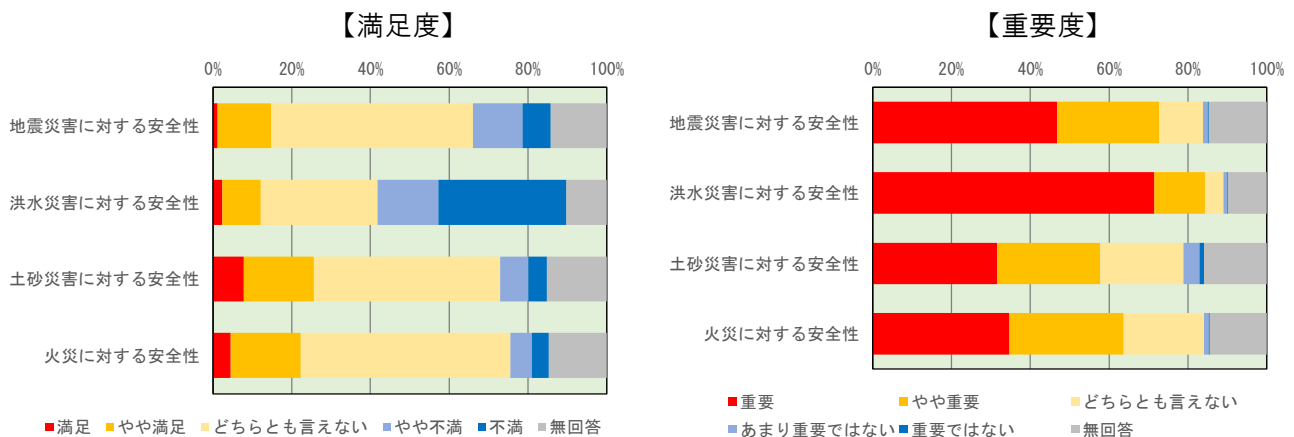
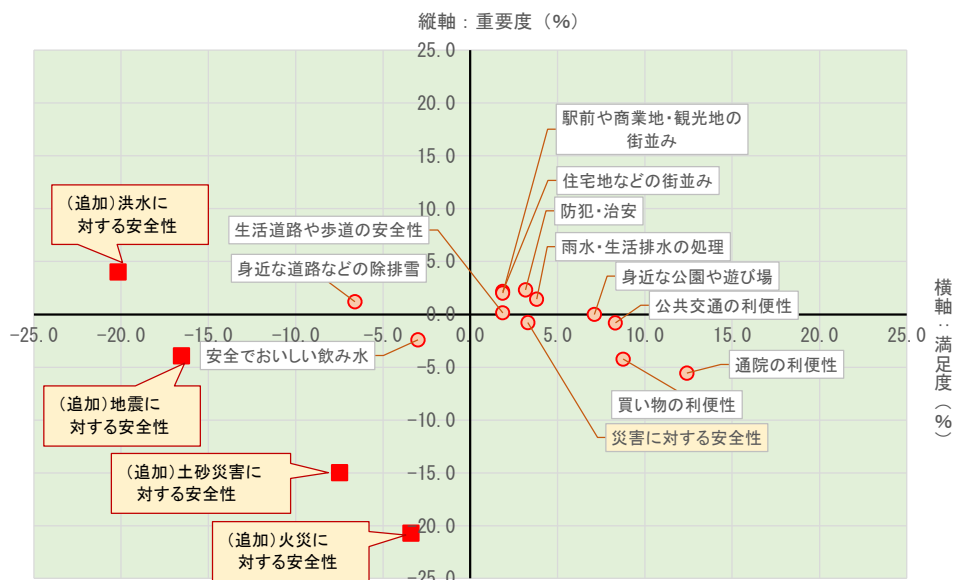


図3-5 飯山地域の生活環境に対する満足度と重要度の変化



注：追加の災害関係の項目は「災害に対する安全性」の市全体平均値からの差分により算出、ただし満足度・重要度ともに「無回答」割合が10～15%と多いため、無回答を除く割合で比較

（３）地域のまちづくりの方向性とまちづくり方針

飯山地域では、中心市街地の都市機能と活力を維持することで、周辺地域の利便性やにぎわいを牽引する役割を担うとともに、飯山駅と周辺観光地との連携強化によって、国内外から訪れる観光客の玄関口としてのまちづくりを進めます。

【飯山地域のまちづくりのテーマ】

飯山市の活力を牽引し、国内外から訪れる人々をもてなすまちづくり

飯山地域では、このまちづくりのテーマに基づき、今後、以下のまちづくりを中心に進めていきます。

① 都市活力を支える人口と都市機能の維持

- ・「都市機能集積区域」内の商業施設・医療施設の維持及び集積拡大
- ・「まちなか居住推進区域」内での子育て世代や高齢者世代向け住宅の確保
- ・旧城南中跡地を活用した新たな都市機能及び人口の集積
- ・空き家等を活用した定住・移住

② 飯山駅周辺の交通結節点機能の向上

- ・JR 飯山線・バス等への乗換利便性の向上
- ・飯山駅周辺における観光案内機能・待合機能・宿泊機能等の充実

③ 歴史的まち並みを回遊できるまちづくり

- ・飯山駅から飯山城址公園等を回遊する歩行空間の整備
- ・回遊ネットワーク沿道の歴史的まち並み形成、休憩施設等の整備

④ 冬でも快適に暮らすことができるまちづくり

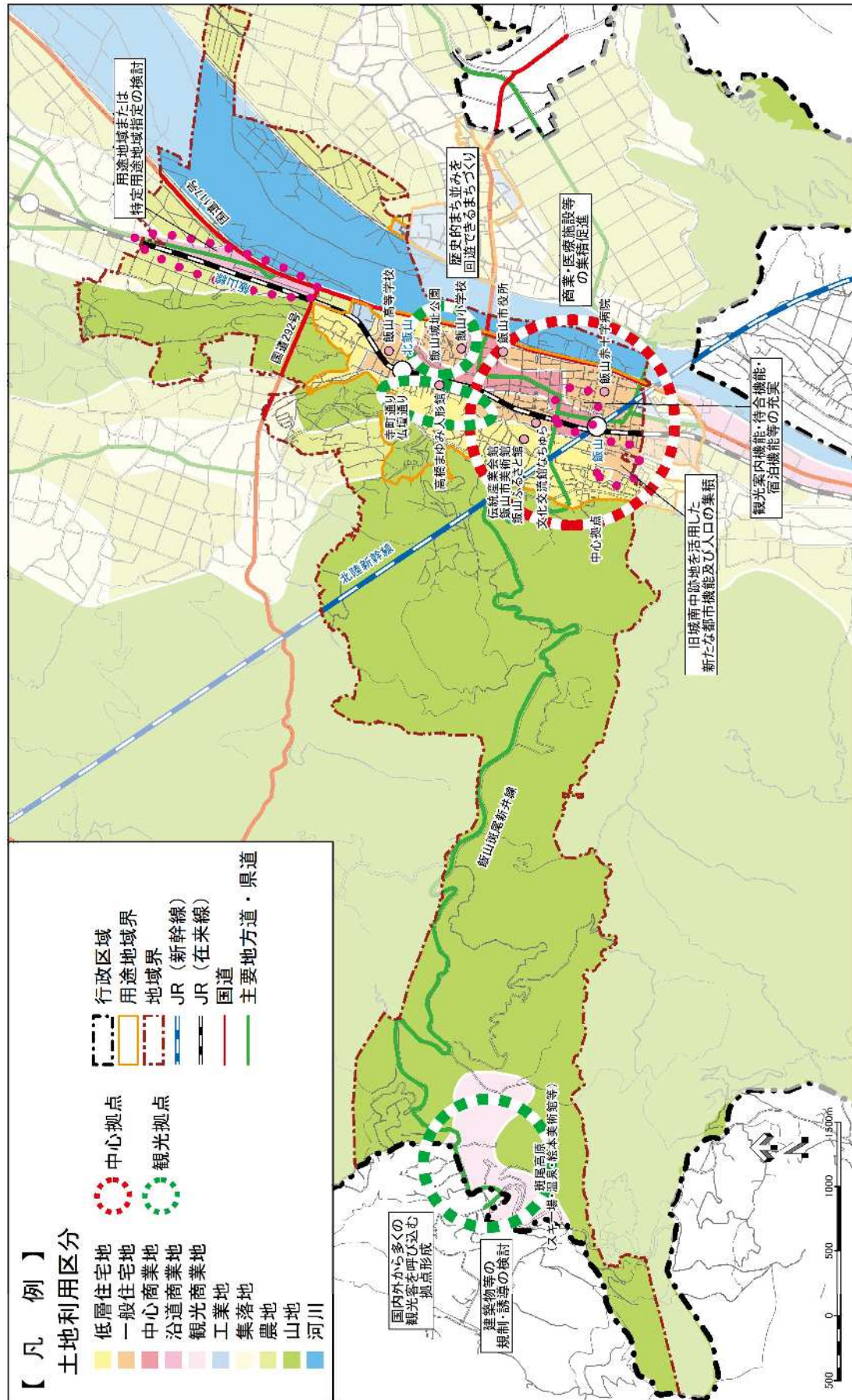
- ・回遊ネットワークを中心とした除排雪・消融雪施設の維持・充実
- ・空き地を活用した雪捨て場の確保

⑤ 斑尾高原における魅力的な観光拠点づくり

- ・高品質な観光施設の集積と自然環境及び自然景観の保全
- ・住民と事業者とが一体となった地域運営ルールの検討
- ・都市計画区域への編入又は準都市計画区域※の指定による建築物等の規制・誘導の検討

※準都市計画区域：都市計画区域「外」で、無秩序な開発や建築が行われる恐れのある区域を対象として、土地利用の整序や環境の保全を目的として指定する区域。都市計画区域のように都市施設（道路、公園、下水道等）の整備や市街地開発事業は行うことはできず、開発や建築の確認・規制が中心となる。

図3-6 飯山地域のまちづくり方針図



【飯山地域におけるまちづくりの取組】

◎「寺町の伝統文化」



飯山は中心市街地に 20 もの寺が建つ寺町です。地図を見れば一目瞭然、とりわけ西の丘陵地帯には寺院がずらりと並び、それをつなぐ小径は現在、寺巡り遊歩道として整備されています。

人口約 2 万人というさほど大きくないこの町に、なぜ、こんなにも寺が集中しているのでしょうか。鎌倉時代に活躍し、飯山にも逗留した親鸞の熱心な布教活動の影響を受けて弟子となった地元の豪族・井上善性の存在も一因だそう。しかし、ここまでの寺町を形成するに至ったのは何より“城下町”飯山があったからこそなのです。

今、城跡に立てば丘陵地帯に並ぶ寺が一望できたことがうかがえます。一説には、その眺めを生み出すことも、寺院建立のひとつの理由だったのではとも考えられています。

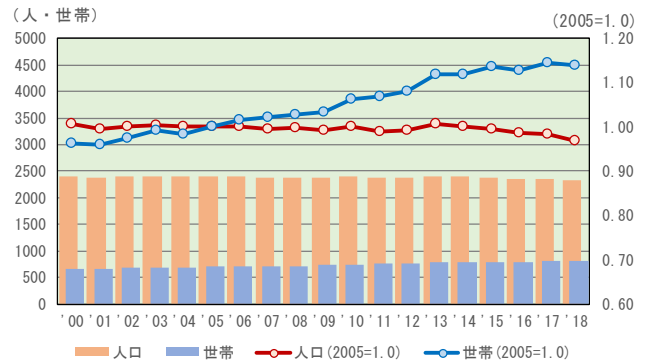
(文章・写真は全て「飯山旅々 (vol. 8)」より引用)

2-2. 秋津地域

(1) 地域の現況と課題

- ・中野市に隣接する市最南部の地域であり、古くから街道筋に村が発達し、現在も幹線道路沿道を中心に市街地や集落が形成されています。
- ・上信越自動車道・豊田飯山 IC へ通じる国道 117 号バイパスの整備、北陸新幹線飯山駅の開設により、中心市街地に近く、交通利便性の高い地域として発展してきました。
- ・近年の住宅地開発により市内で最も人口及び世帯数が増加した地域であり、平成 27 年時点の人口は 2,380 人、世帯数は 796 世帯となっています。
- ・平成 17 年～27 年の人口増減は-0.5%、世帯数増減では+13.6%であり、市内の中では最も人口減少が少なく、かつ世帯数の増加が多い地域です。平成 27 年時点の 65 歳以上人口割合は 27.8%、15 歳未満人口割合は 14.6%であり、市内で最も高齢人口割合が低く、かつ年少人口割合の高い地域です。

図 3-7 人口・世帯数の推移

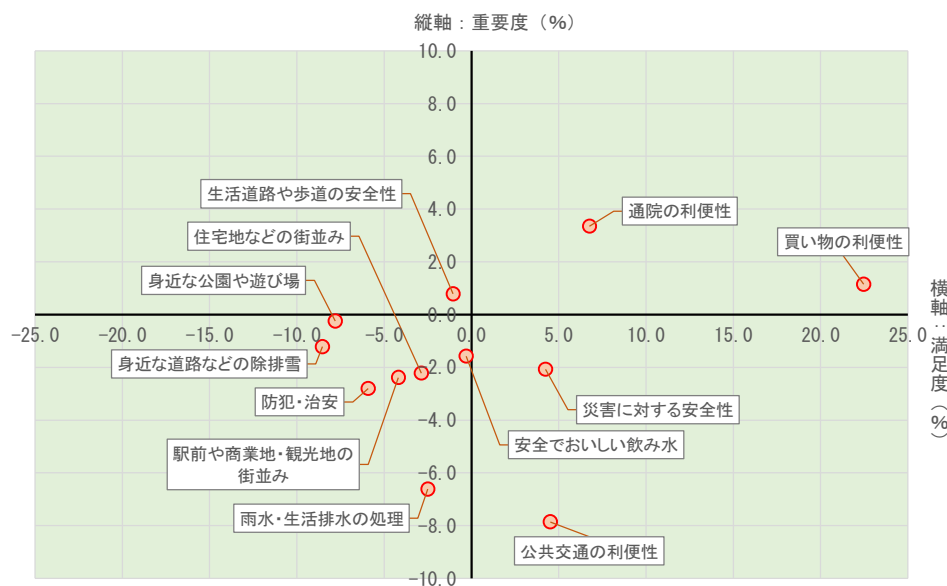


(資料：住民基本台帳人口)

(2) 地域住民意向

- ・令和元年 6 月に実施した市民アンケート結果では、買い物の利便性の満足度は市内で最も高く、通院の利便性の満足度も高くなっています。
- ・一方で、住宅地の街並みについては、市内で最も満足度が低く、身近な公園や遊び場の整備状況の満足度も低くなっています。また、他地域よりも生活道路や歩道の安全性に対する満足度が低く、かつ重要度が高くなっています。

図 3-8 秋津地域の生活環境に対する満足度と重要度



注：各項目の値は、満足度・重要度の市全体平均と当該地域の値との差分により算出

（３）地域のまちづくりの方向性とまちづくり方針

秋津地域では、飯山駅を含む中心市街地への近接性、さらに周辺都市からのアクセス性も生かして、市民の買い物や雇用の場となっている大規模な商業・工業施設の集積を維持するとともに、周辺の田園環境と調和する計画的な土地利用の推進により、利便性とゆとりを備えた住宅地の形成を進めます。

【秋津地域のまちづくりのテーマ】

利便性と豊かな田園環境とが調和する「とんぼの里」のまちづくり

秋津地域では、このまちづくりのテーマに基づき、今後、以下のまちづくりを中心に進めていきます。

① 飯山駅の利便性を生かした住宅地の整備

- ・ 北畑地区をはじめとする「まちなか居住推進区域」内における良好な居住環境の形成
- ・ 市街地隣接部における良好な居住環境形成に向けた用途地域指定拡大の検討

② 幹線道路沿道の大規模商業・工業施設の集積維持

- ・ 既存集積エリアに対する産業系の用途地域または特定用途制限地域指定の検討
- ・ 地域内及び市内から大規模商業施設等にアクセスするためのバス等運行の実施

③ 中心拠点と連携した生活拠点の維持・形成

- ・ コミュニティの維持・形成を目的とした地域の公共施設の計画的な維持・更新
- ・ 生活拠点と飯山駅周辺を結ぶ公共交通の維持
- ・ 「小さな拠点」づくりによる生活サービス機能の維持
- ・ 古牧橋の機能強化

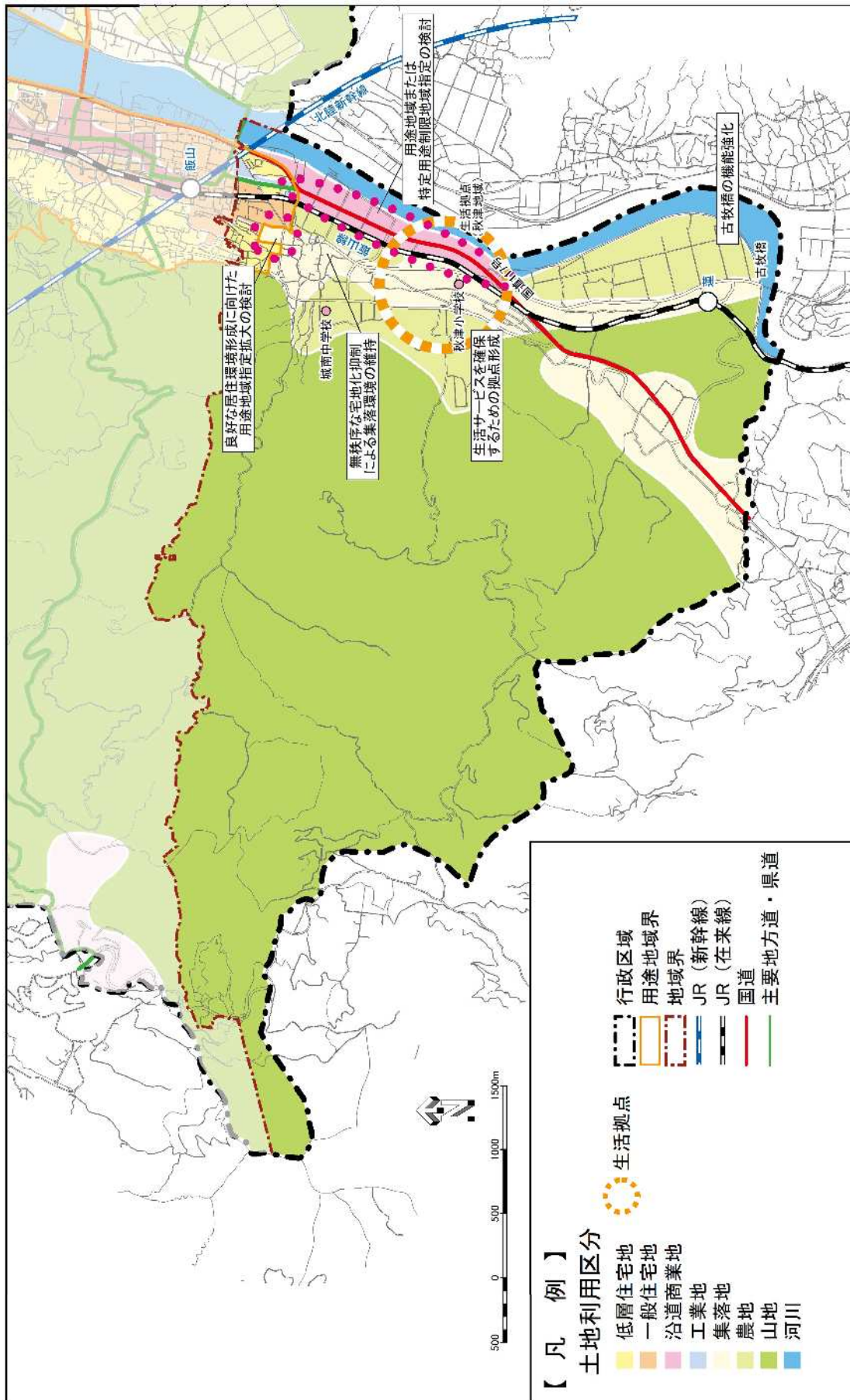
④ 身近な公園等の整備

- ・ とんぼの里をテーマにした各種イベント（とんぼの里まつり、雪だるま祭り）の推進
- ・ 農村公園等の既存公園の積極的な利活用、地域住民が主体となった管理運営の検討
- ・ 低未利用地等を活用した身近な公園づくりの推進

⑤ 集落環境の維持と優良農地の保全

- ・ 無秩序な宅地化抑制による集落環境の維持
- ・ 農用地区域指定による優良農地の保全
- ・ 国道 117 号及び 292 号沿道における屋外広告物等の規制

図3-9 秋津地域のまちづくり方針図



【秋津地域におけるまちづくりの取組】

◎「静間神社例大祭」



『保元物語』や『平家物語』に登場する伝静妻（志妻・志津間・閑妻他）氏館跡とされる場所にある、秋津区の静間神社。この静間神社例大祭は、北畑・中町・大久保の3つの集落による祭り屋台が小高い丘の上にある静間神社に奉納される様子が圧巻の祭礼です。屋台は、明治中期に建造され、彫刻等が施されたものに、天井絵、人気アニメキャラクター等が加えられ、伝統と現代的な形が融合した印象を受けます。その屋台上では子どもたちが各集落で異なる調子の笛や太鼓を演奏し、屋根の上には先導役が大きなかけ声をかけていて勇壮な雰囲気が漂っています。

祭りは3台の屋台が境内に上がると、毎年、祭りの時にだけ拝殿の横に組み立てられる舞台の上で各集落の男子小学生により、薙刀の舞が披露されます。衣装や振り付けもまた集落により異なり、観客からはかけ声や拍手が上がります。その後、獅子舞、神田囃子（かんだばやし）なども奉納され、大人から子どもへと長きに渡り受け継がれている伝統が伝わってきます。大人も子どもも地域の誇りをかけて、本番で最高のものを披露しようという目的に向かって練習に打ち込む。それが地域のきずなを強め、さらに見る者に感動を与えているように感じられます。

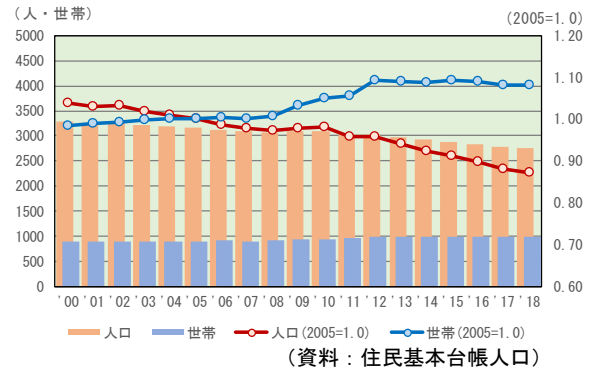
（文章・写真は全て「信州いいやま観光局ホームページ」より引用）

2-3. 木島地域

(1) 地域の現況と課題

- ・ 古来、水害の常襲地帯となっており、かつては水田・畑を中心とする田園地帯でしたが、木島工業団地・東栄工業団地の開発によって、本市の工業生産の一大拠点として発展してきました。
- ・ 新中央橋の平成 27 年の開通によって交通渋滞が解消されたことから、木島地域における宅地需要が増加しています。
- ・ 人口は減少しているものの世帯数は増加しており、平成 27 年時点の人口は 2,883 人、世帯数は 987 世帯となっています。
- ・ 平成 17 年～27 年の人口増減は-8.7%、世帯数増減では+9.2%であり、秋津地域に次いで人口減少が少なく、かつ世帯数の増加が多い地域です。平成 27 年時点の 65 歳以上人口割合は 32.7%であり、市全体の中では高齢化率が低い地域となっています。

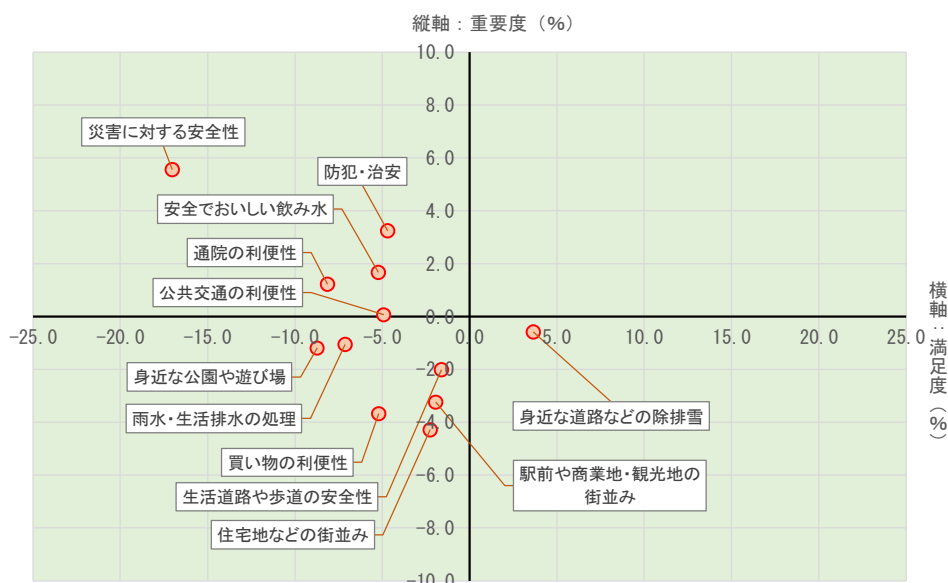
図 3-10 人口・世帯数の推移



(2) 地域住民意向

- ・ 令和元年 6 月に実施した市民アンケート結果では、全ての生活環境の項目に対して満足度が低く、特に災害に対する安全性、身近な公園や遊び場の整備状況に対する満足度が低くなっています。また、飯山・秋津などを含めた市街地エリアの中で比較すると、公共交通利便性に対する満足度も低くなっています。
- ・ 他地域より満足度が低く、かつ重要度が高いのは、災害に対する安全性や防犯・治安、通院の利便性といった項目となっています。

図 3-11 木島地域の生活環境に対する満足度と重要度



注：各項目の値は、満足度・重要度の市全体平均と当該地域の値との差分により算出

（３）地域のまちづくりの方向性とまちづくり方針

木島地域では、本市の工業を牽引する地域として今後も工業集積の維持に努めるとともに、水害と向き合ってきた歴史を踏まえつつ優良農地の保全に努めます。さらに、地域が抱える災害危険性や基盤整備状況等を踏まえつつ、中心市街地に近接した利便性の高い住宅の形成を進めます。

【木島地域のまちづくりのテーマ】

農業と工業が調和した若い世代が住みやすいまちづくり

木島地域では、このまちづくりのテーマに基づき、今後、以下のまちづくりを中心に進めていきます。

① 工業団地における企業集積の維持

- ・ 企業誘致や既存企業の拡張等の推進
- ・ 工業系土地利用を優先するための用途地域見直しの検討

② 集落環境の維持と優良農地の保全

- ・ 農用地区域指定による優良農地の保全
- ・ 信州の伝統野菜である「坂井芋」栽培を中心とした土地特性を生かした農業振興

③ 水害に強いまちづくりの推進

- ・ 洪水の危険性の高い地域における宅地開発の抑制
- ・ 河川改修、堤防整備の促進による水害の危険性低減
- ・ 排水機場改修による内水被害の危険性低減

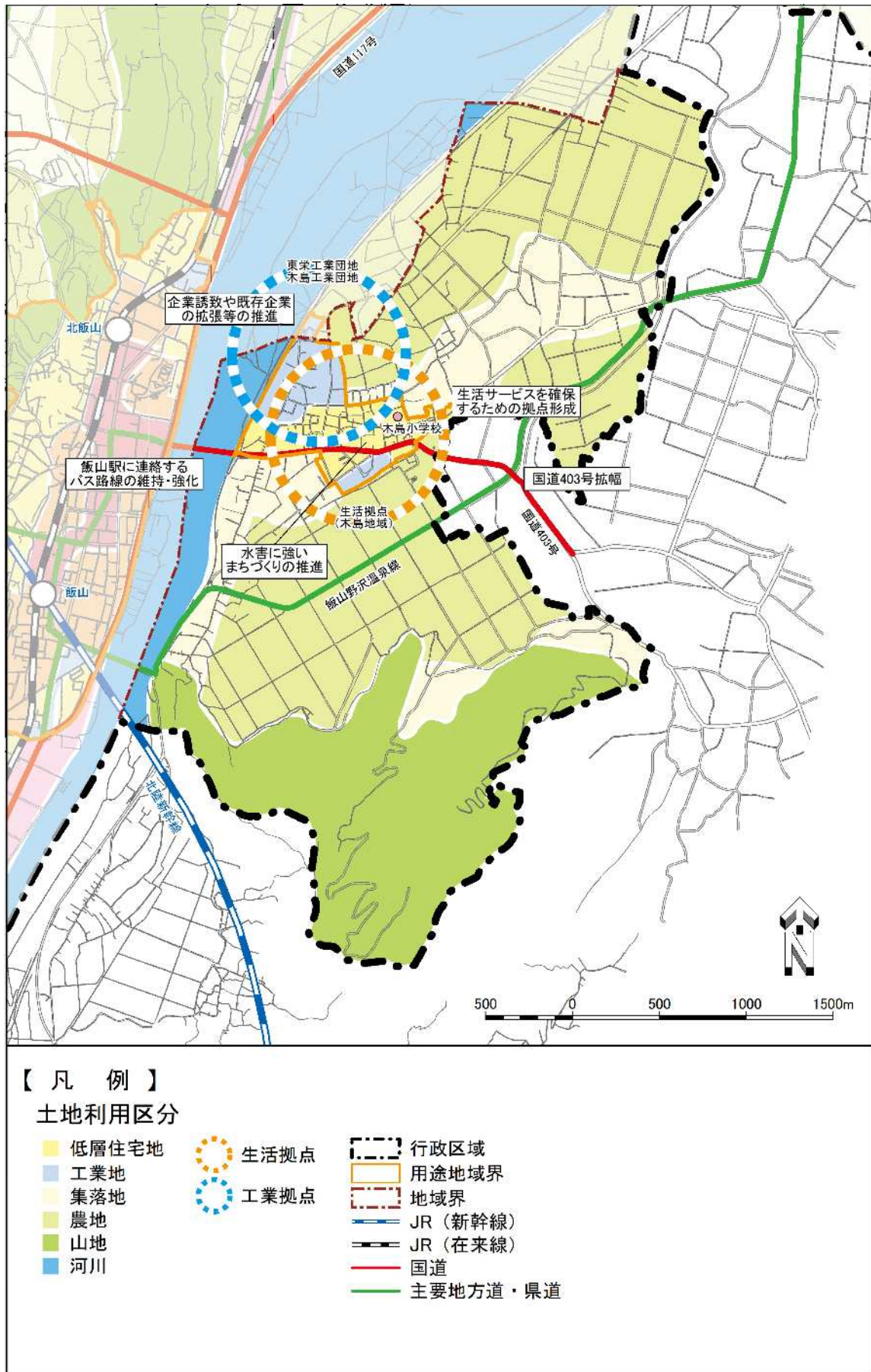
④ 飯山地域との更なる一体性向上

- ・ 生活拠点と飯山駅周辺を結ぶバス路線（国道 403 号等）の維持・強化
- ・ コミュニティバスや乗合タクシーによる点在する集落への連絡強化

⑤ 身近な公園等の整備

- ・ 低未利用地等を活用した身近な公園づくりの推進
- ・ 地域住民が主体となった公園づくり及び管理運営の検討

図 3-12 木島地域のまちづくり方針図



【木島地域におけるまちづくりの取組】

◎「伝統野菜坂井芋」



千曲川沿岸、木島の坂井地区では、信州の伝統野菜に選定されている、「坂井芋」と呼ばれる里芋の栽培が行われています。

栽培の始まりは江戸時代にさかのぼり、度々千曲川の氾濫に悩まされていた坂井地区でも収穫が可能な作物を模索した結果、定着したと伝えられています。

掘り上げるのも一苦勞ですが、芋同士が土をしっかりと掴んでいて重いので、運ぶのも大変です。また、写真のように、反った形が坂井芋の特徴です

この坂井芋、川の堤防を挟んで外側の畑と内側の畑で、味が変わると言われています。先日、地元の小学生を対象とした収穫体験の際に行われた食べ比べでもその差は歴然で、どちらの方が美味しいか論争が盛り上がりを見せていました。特に堤防の外側（河川が流れている側）で栽培されたものは肉質がきめ細かく、むっちりとした噛み応えに強い粘りが印象的で、他の里芋とは違った美味しさを感じました。

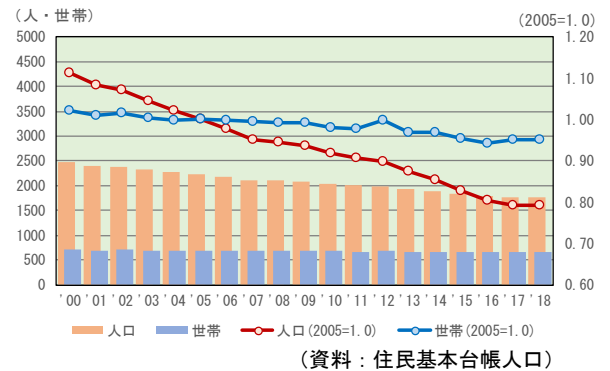
（文章・写真は全て「北信農業農村支援センター：長野県魅力発信ブログ」より引用）

2-4. 瑞穂地域

(1) 地域の現況と課題

- ・地域東側に三国山脈に連なる山地が広がり、その山裾と千曲川沿いの平地に集落と農地が形成されています。山裾に古くから開墾された棚田は、地元組織の保全活動により復元され、「日本の棚田百選」にも認定されています。
- ・小菅神社を中心とする小菅の里には、奥社本殿をはじめとする数多くの文化財があり、「小菅の里及び小菅山の文化的景観」は、平成27年に国の重要文化的景観に選定されました。
- ・三方を山に囲まれた北竜湖周辺には、温泉、キャンプ場等のレジャー・宿泊施設も立地し、夏には花火大会が開催されています。
- ・平成27年時点の人口は1,839人、世帯数は658世帯となっています。平成17年～27年の人口増減は-17.2%、世帯数増減では-4.6%であり、市全体の中でも人口・世帯数の減少が進んでいる地域です。また、平成27年時点の65歳以上人口割合は41.0%であり、市内では太田・岡山地域に次いで高い高齢化率となっています。

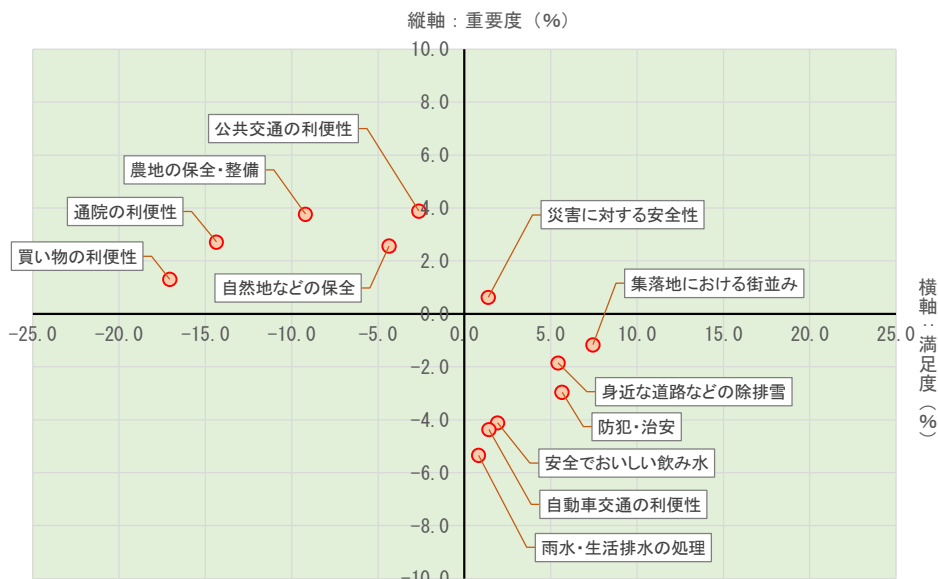
図3-13 人口・世帯数の推移



(2) 地域住民意向

- ・令和元年6月に実施した市民アンケート結果では、他の地域よりも集落地の街並みに対する満足度が高くなっています。
- ・一方で、農地の保全・整備、自然地の保全に関しては満足度が低く、かつ重要度も高くなっています。また、買い物や通院の利便性に関しては、他の地域より満足度が低く、かつ重要度が高くなっています。

図3-14 瑞穂地域の生活環境に対する満足度と重要度



注：各項目の値は、満足度・重要度の市全体平均と当該地域の値との差分により算出

（３）地域のまちづくりの方向性とまちづくり方針

瑞穂地域では、地域の営みと努力を通じて継承されてきた様々な資源や景観を生かして、国内外から観光客が訪れる拠点づくりを進めることで、今後も独自の魅力と個性を備えたまちづくりを進めます。

【瑞穂地域のまちづくりのテーマ】

歴史と伝統、自然と観光が生活の中に根差すまちづくり

瑞穂地域では、このまちづくりのテーマに基づき、今後、以下のまちづくりを中心に進めていきます。

① 伝統的重要景観と調和したまちづくり

- ・ 地域内に多数残された各種文化財等の保全・活用
- ・ 小菅の里周辺における広がりと連続性のある文化的景観の保全

② 様々な資源を活用した観光拠点づくり

- ・ 北竜湖周辺における滞在型観光の強化
- ・ 菜の花公園周辺における良好な景観の保全、菜の花祭りの開催

③ 中心拠点と連携した生活拠点の維持・形成

- ・ コミュニティの維持・形成を目的とした地域の公共施設の計画的な維持・更新
- ・ 生活拠点と飯山駅周辺を結ぶ公共交通の維持
- ・ 「小さな拠点」づくりによる生活サービス機能の維持
- ・ 大関橋・柏尾橋の機能強化

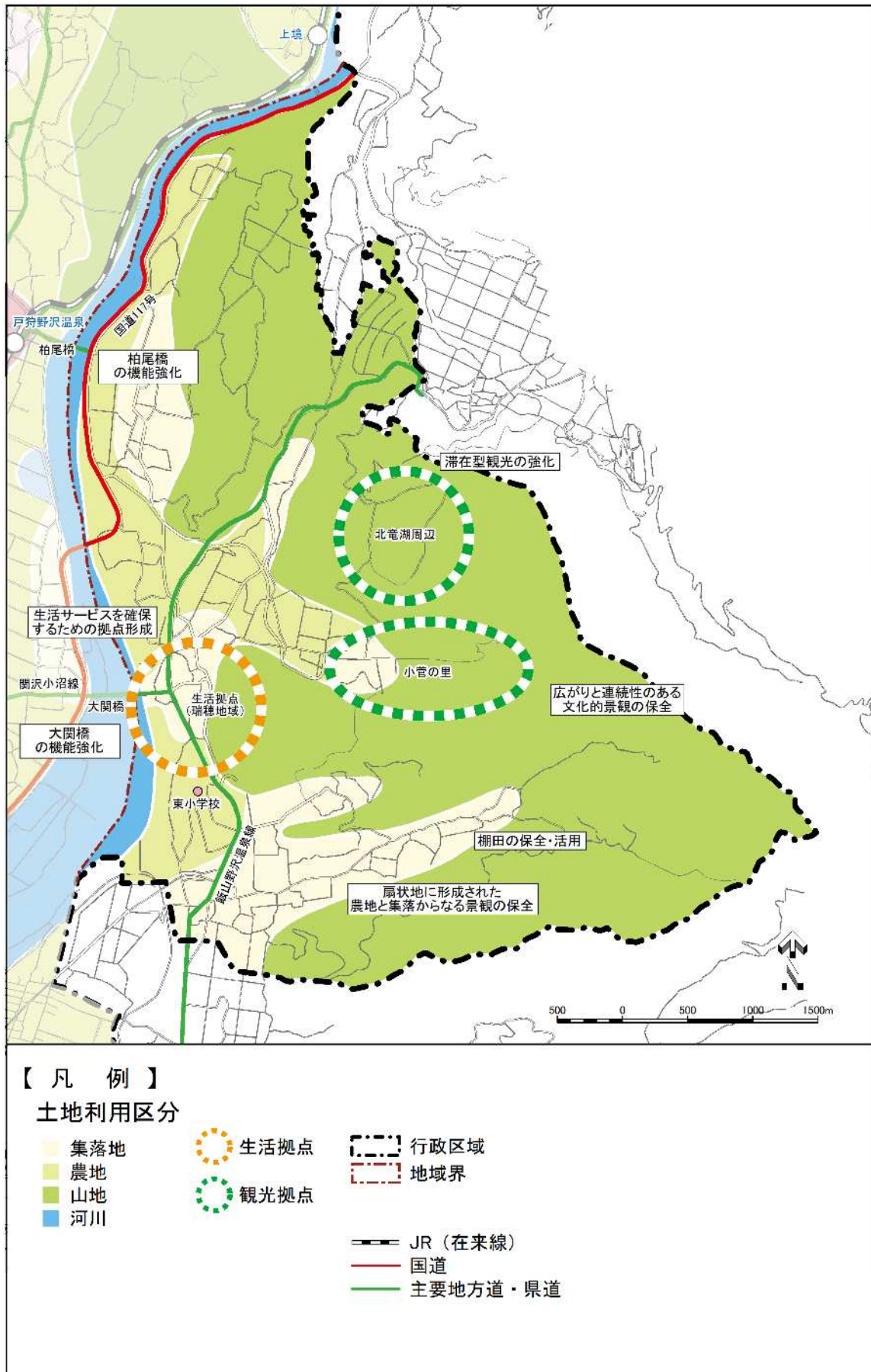
④ 棚田保全の取組の継承

- ・ 棚田の保全・活用の担い手確保、児童・生徒による棚田保全の取組継承
- ・ 観光やグリーンツーリズムと連携した棚田の保全

⑤ 集落環境の維持と優良農地の保全

- ・ 農用地区域指定による優良農地の保全
- ・ 扇状地に形成された農地と集落からなる景観の保全
- ・ 空き家等を活用した定住・移住の促進

図 3-15 瑞穂地域のまちづくり方針図



【瑞穂地域におけるまちづくりの取組】

◎「小菅の里」



三方を山に抱かれたこの里は、役小角（えんのおづぬ）が小菅山を開山し、岩窟に八所権現を祀ったのがはじまりとされます。その130年あまりのちの大同年中（806～810年）に小菅山元隆寺が創建されたと伝えられています。

中世以前は奥社本殿から参道南の伽耶吉利堂跡、そして斑尾山に向かう軸に、中近世には現在の参道から妙高山に向かう軸に、それぞれ霊場が構成されていたと考えられています。

戸隠神社、飯綱神社とともに、北信濃の三大修験霊場のひとつとされ、多くの修験者が風切峠を越えてやってきました。

かつて修験霊場として栄えた賑わいを今にみることは叶いませんが、集落には院坊が並んだ石垣と平場による地割が今もその姿をとどめ、特徴的な風景をつくりだしています。

こうした風景や暮らしが評価され、小菅の里は平成27（2015）年1月「小菅の里及び小菅山の文化的景観」に指定されました。役小角が開山したといわれてから1300年余が経った今、小菅を慈しむ人の手で、古くて新しい小菅の里が、かたちづくられようとしています。

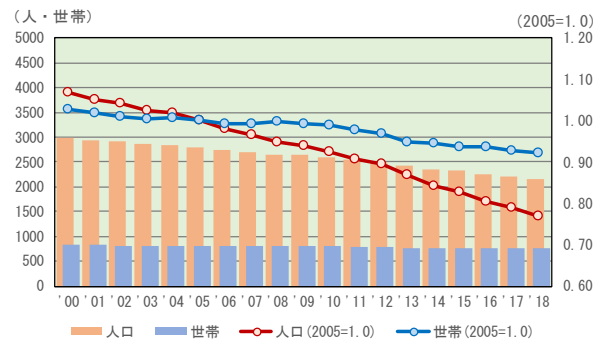
（文章は全て「飯山旅々（vol.4）」より引用）

2-5. 柳原・富倉・外様地域

(1) 地域の現況と課題

- ・ 関田山脈を越えて信濃と越後を結ぶ交易路に位置し、長峰丘陵西側の外様平に広がる農地と集落、山間部の富倉の集落から構成されています。
- ・ ギフチョウとヒメギフチョウの混棲地をはじめ貴重な動植物の生息・生育地として有名です。
- ・ 長峰丘陵と外様平には優良農地が広がり、農業体験を始めとするグリーンツーリズムが展開されています。特に、富倉などの山間部では、富倉そばや笹ずし、山菜などの食文化を通じた観光・交流も展開されています。
- ・ 太田・岡山地域に次いで人口減少が進んでいる地域であり、平成27年時点の人口は2,315人、世帯数は762世帯となっています。
- ・ 平成17年～27年の人口増減は-17.3%、世帯数増減も-6.3%となっており、特に富倉地区の人口は10年間で半減するほど、急激な人口減少が進んでいます。平成27年時点の65歳以上人口割合は37.4%であり、市の中でも高齢化率が高い地域となっています。

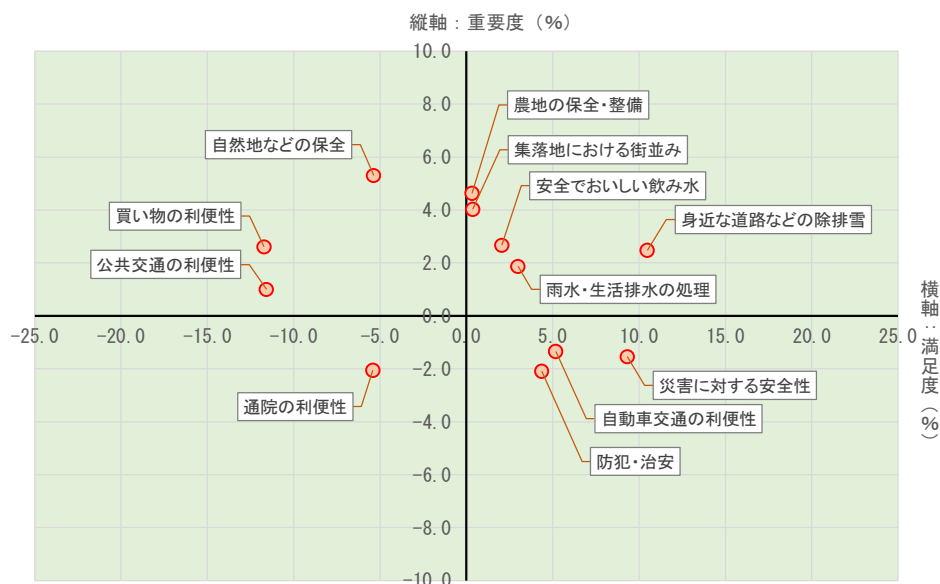
図 3-16 人口・世帯数の推移



(2) 地域住民意向

- ・ 令和元年6月に実施した市民アンケート結果では、他の地域よりも集落地の街並み、農地の保全・整備、自然地の保全に対する重要度が高いものの、満足度はそれほど高くありません。
- ・ 身近な除排雪は市内で最も満足度が高くなっていますが、公共交通の利便性は市内で最も満足度が低くなっています。また、買い物や通院の利便性に関する満足度が低くなっていますが、通院よりも買い物の方が重要度は高くなっています。

図 3-17 柳原・富倉・外様地域の生活環境に対する満足度と重要度



（３）地域のまちづくりの方向性とまちづくり方針

柳原・富倉・外様地域では、自然体験や農業体験を柱とした交流により貴重な自然環境や優良農地の保全に努めるとともに、市内外との様々な連携の強化により、地域の利便性やコミュニティが維持されるまちづくりを進めます。

【柳原・富倉・外様地域のまちづくりのテーマ】

山の恵みや里の恵みを生かして人々を迎え入れるまちづくり

柳原・富倉・外様地域では、このまちづくりのテーマに基づき、今後、以下のまちづくりを中心に進めていきます。

① 自然環境や田園環境を生かした観光・交流の促進

- ・ かまくらの里・かまくら祭りの開催を通じた観光・交流の場の拡大
- ・ 山菜や薬草、富倉そばや笹寿司等の郷土料理を生かした地域活性化の検討

② 丘陵地・山地の貴重な自然の保全

- ・ 長峰丘陵や関田山脈における豊かな自然環境の保全
- ・ 観光やグリーンツーリズムと連携した森林資源の保全

③ 優良農地の保全と農業の担い手の確保

- ・ 農用地区域指定による優良農地の保全
- ・ 地域おこし協力隊等と連携した中山間地の農地の保全
- ・ 空き家等を活用した定住・移住の促進

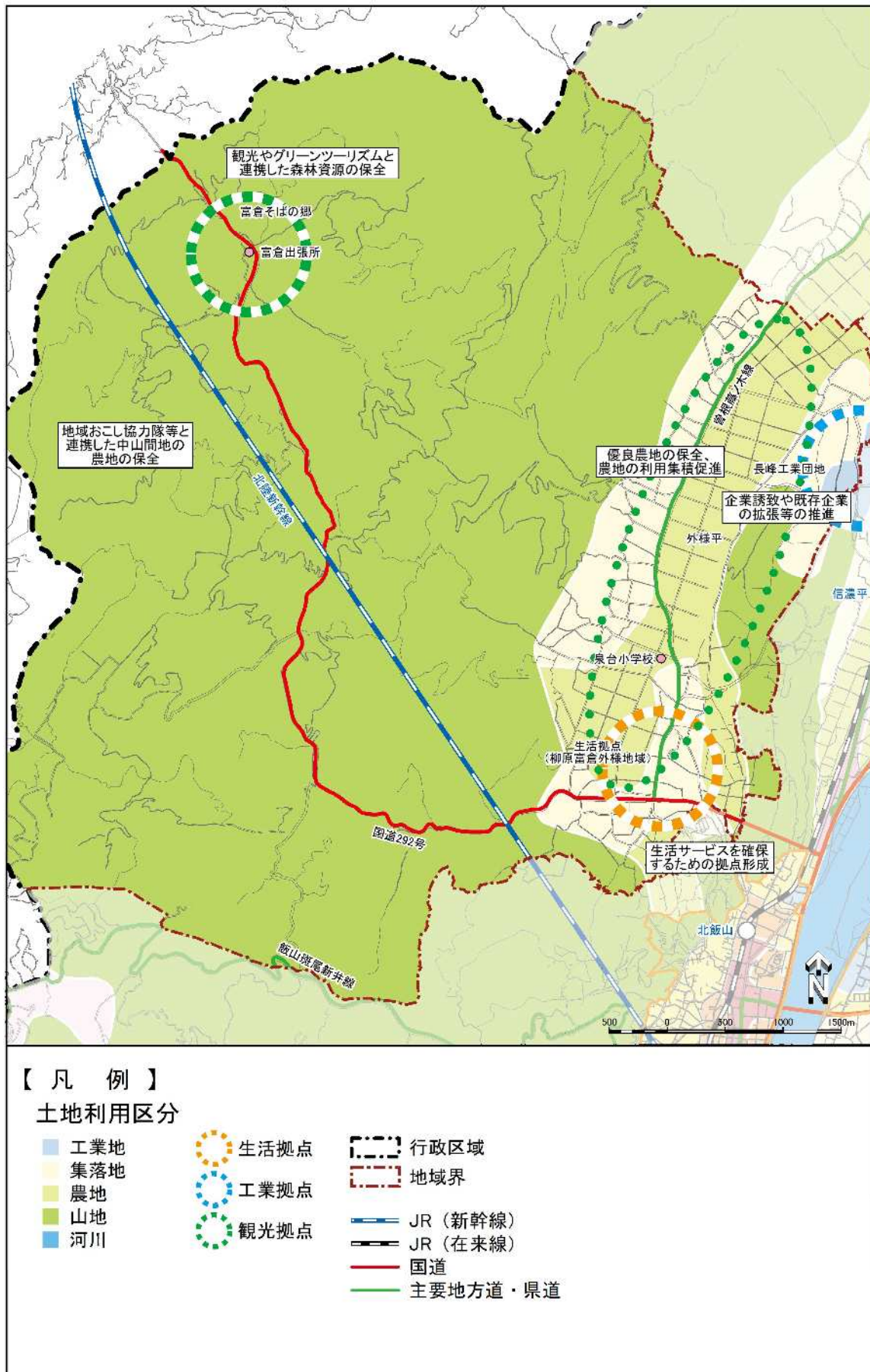
④ 中心市街地等に連絡する公共交通の維持・強化

- ・ 生活拠点と飯山駅周辺を結ぶ公共交通の維持
- ・ 中心市街地及び周辺都市に連絡する幹線道路における除雪体制の維持・強化
- ・ 地域の実態に応じたバス・タクシー等の運行ルートや運行本数の見直し

⑤ 中山間地における生活サービスの確保

- ・ 「小さな拠点」づくりによる生活サービス機能の維持
- ・ 移動スーパー等の導入による買い物支援
- ・ バス停や集会施設等までの移動手段となる一人乗り電動自動車等導入に向けた検討

図 3-18 柳原・富倉・外様地域のまちづくり方針図



【柳原・富倉・外様地域におけるまちづくりの取組】

◎「かまくら祭り」



一面が雪に覆われる1月、外様地区にそびえる黒岩山の麓に、60代を中心とした地元の男たちが続々と集まってきます。

彼らが集まり、つくるのは、2月に行われる「かまくら祭り」の主役となるかまくら。約1ヵ月をかけて20個ほどのかまくらをつくり上げます。2月の約1ヵ月は、かまくらのなかで名物「のろし鍋」などがいただけるレストランかまくら村がオープン。祭り期間中は、花火、もちつき、宝探しとさまざまな催しが行われます。



祭りとして開催するようになったのは15年前。実行委員会ができ、かまくら応援隊が立ち上がり、20人ほどが登録してかまくらづくりに取り組みます。応援隊には生まれも育ちも外様という人もいれば、お婿に来た人も、移住者もいます。

ろうそくの灯が揺れるかまくらに入ると、そのなかは意外と暖か。豪雪地帯に暮らす人の温かな気持ちが、かまくらの温もりを増しているようです。

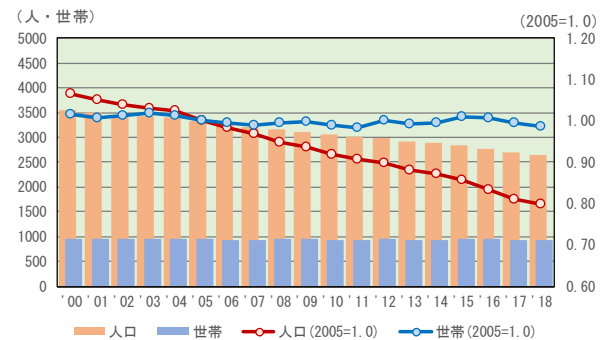
(文章・写真は全て「飯山旅々 (vol.1)」より引用)

2-6. 常盤地域

(1) 地域の現況と課題

- ・市の中央に位置し、千曲川と長峰丘陵に挟まれた平地に集落が分布しています。
- ・地域内には国道117号のほか複数の県道が走り、これら幹線道路沿いに集落が形成されています。
- ・長峰工業団地が本市の工業生産拠点の一部を担っているほか、長峰丘陵東側の常盤平の優良農地は、本市農業の主要な生産拠点となっています。
- ・人口は減少しているものの、世帯数は増加してきた地域であり、平成27年時点での人口は2,845人、世帯数は958世帯となっています。
- ・平成17年～27年の人口増減は-14.3%、世帯数増減では+1.1%となっていますが、平成27年以降は世帯数でも減少傾向となっています。平成27年時点の65歳以上人口割合は35.1%であり、市全体の中では高齢化率が高い地域となっています。

図3-19 人口・世帯数の推移

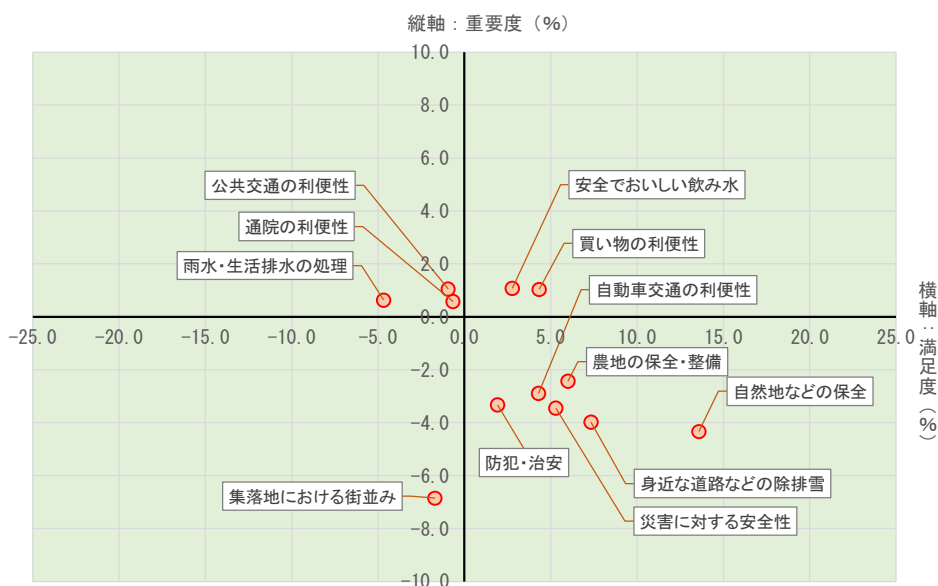


（資料：住民基本台帳人口）

(2) 地域住民意向

- ・令和元年6月に実施した市民アンケート結果では、生活環境に対する満足度が全体的に高く、農地の保全・整備、自然地の保全、自動車交通の利便性、身近な除排雪に対する満足度などは他地域よりも高くなっている。
- ・一方で、雨水・生活排水の処理、公共交通の利便性、通院の利便性については、他地域より満足度が低く、かつ重要度が高くなっている。

図3-20 常盤地域の生活環境に対する満足度と重要度



注：各項目の値は、満足度・重要度の市全体平均と当該地域の値との差分により算出

（３）地域のまちづくりの方向性とまちづくり方針

常盤地域では、本市の農業を牽引する地域として今後も優良農地の保全に努めるとともに、工業団地の工業集積の維持や集落の居住環境の整備により、様々な土地利用のバランスが取れたまちづくりを進めます。

【常盤地域のまちづくりのテーマ】

生産性の高い農業と利便性の高い生活とが共存するまちづくり

常盤地域では、このまちづくりのテーマに基づき、今後、以下のまちづくりを中心に進めていきます。

① 市内北部全体の利便性を支える北部拠点の形成

- ・戸狩野沢温泉駅周辺における商業施設等の集積促進
- ・戸狩野沢温泉駅から野沢温泉など周辺地域に連絡する公共交通ネットワークの充実
- ・空き家等を活用した定住・移住の促進

② 信濃平駅を中心とした生活拠点の維持・形成

- ・信濃平駅周辺における商業・医療施設等の維持、道の駅等への案内性の向上
- ・コミュニティの維持・形成を目的とした地域の公共施設の計画的な維持・更新
- ・空き家等を活用した定住・移住の促進

③ 道の駅を中心とした観光拠点の充実

- ・アウトドアスポーツ拠点としての施設・設備の充実、通年型観光の振興
- ・地域の防災拠点としての施設・設備の充実
- ・市内外からの来訪者をターゲットにした農業直販所としての機能向上
- ・かわまちづくり事業による水辺周辺環境の整備

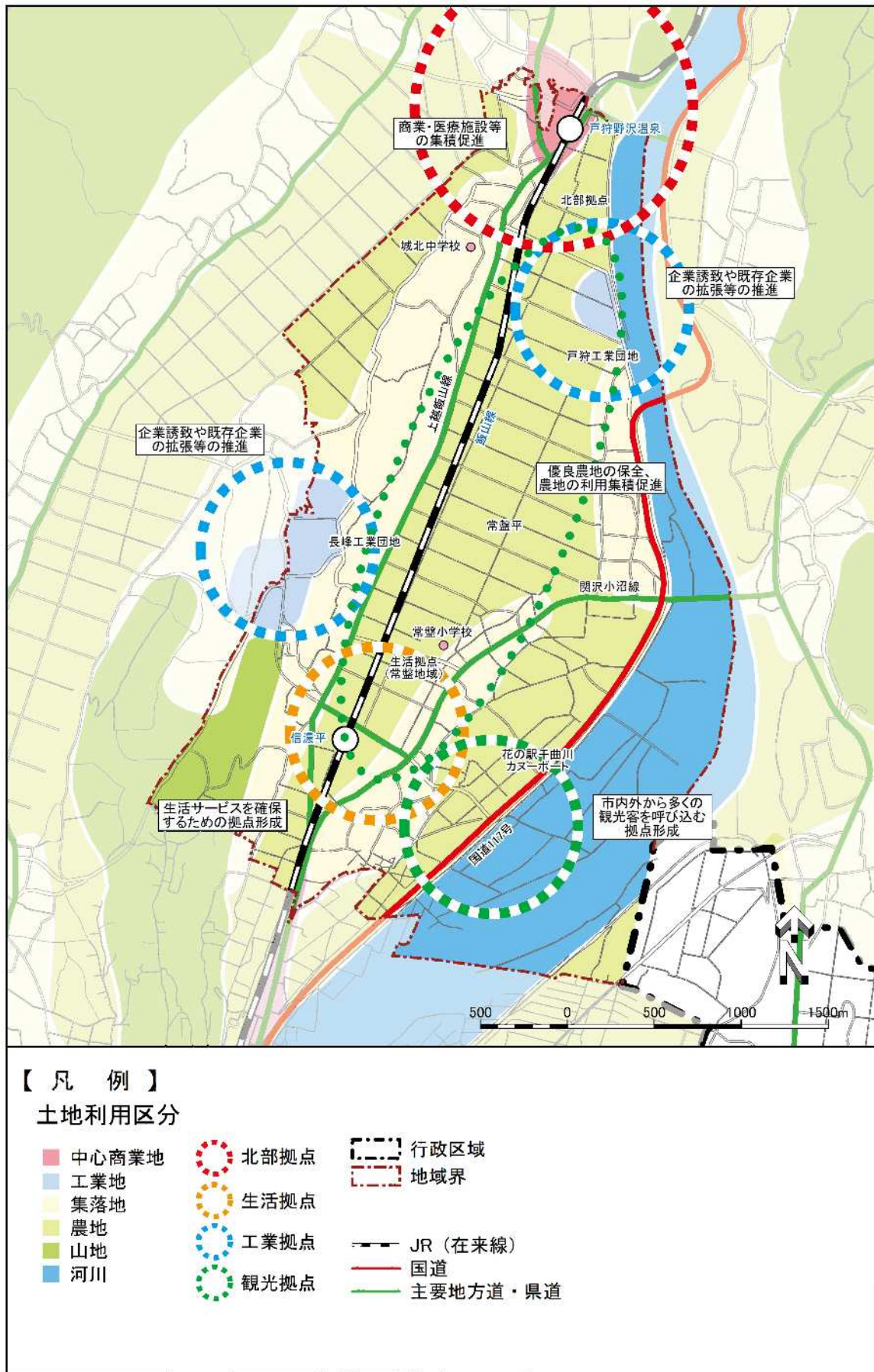
④ 生産性の高いブランド農業の展開

- ・経営合理化と規模拡大による生産性向上
- ・農業生産者が運営する農産物直売所・加工施設の充実による販路拡大
- ・農用地区域指定による優良農地の保全
- ・認定農業者や新規就農者への農地の利用集積促進

⑤ 工業団地における企業集積の維持

- ・企業誘致や既存企業の拡張等の推進
- ・アクセス道路の除排雪等による操業環境の向上

図 3-21 常盤地域のまちづくり方針図



【常盤地域におけるまちづくりの取組】

◎「カヌーツーリング・ラフティング」



長野県から新潟県に入ると信濃川に名前を変え、日本海へとそそぐ日本一長い川・千曲川。全長 367km のほぼ中間地点にあたる飯山市は、川幅が広く流れもゆるやかで、水量も多く、川遊びには最適の場所です。

緑豊かな山々に囲まれ、河岸の植物や野鳥を眺めながら、吹き渡る風を感じるリバーツーリングは、老若何女を問わずおすすめしたいアクティビティのひとつ。

特にカヌーは、他のどの舟よりも水面と近い目線で景色を眺めることができ、普段の生活では眺められない特別感を味わうことができます。

危ないと思われがちなカヌーですが、基本的には十分な準備をすれば水難事故の危険性は大変低いスポーツ。しかも、飯山市内の千曲川はゆっくりと流れるため、力を入れて漕ぐ必要がなく、腕力や体力に自信がない人や子どもでも安心して乗ることができる楽しい乗り物なのです。

千曲川ではほかにもラフティングが楽しめます。

ラフティングとは、ラフトと呼ばれる特殊なゴムボートに乗り込み、みんなで力を合わせて漕いで川を下る人気のレジャースポーツ。「川でのレジャースポーツは初めてで不安」「ひとりでは挑戦しづらい」そんな人でも、みんなとワイワイ参加できるので、気軽にチャレンジできます。そして、流れがゆるやかな千曲川では、ボートを流れにまかせ、川のせせらぎや鳥のさえずりなど、仲間や家族とともに周囲の自然を満喫できるのも魅力。思いっきり家族や仲間たちと騒ぐもよし、カップルでのんびりとぜいたくな時間を過ごすのもよし。カヌーと組み合わせれば、千曲川の楽しみ方はさらに広がります。

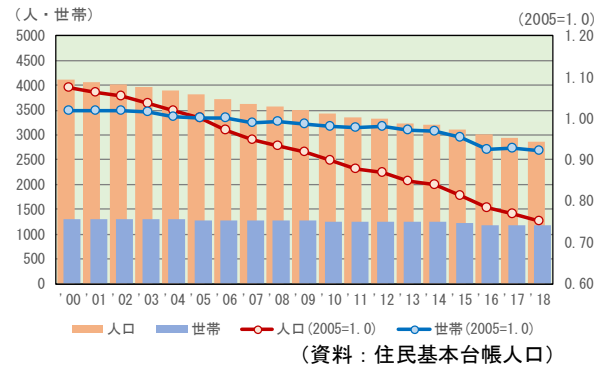
（文章は全て「信州いいやま観光局ホームページ」より引用）

2-7. 太田・岡山地域

(1) 地域の現況と課題

- ・市の最北部に位置し、関田山脈の山地が大半を占める地域です。鍋倉山にはブナ原生林が広がり、長野県の自然百選の1位にも選定されています。
- ・越後の高田や長岡・十日町方面へ通ずる交易路が幾本も通り、街道沿いと千曲川沿いの限られた平地に集落が形成されています。また、関田山脈と長峰丘陵の山裾にも、まとまった農地・集落が形成されています。
- ・戸狩温泉周辺にはスキー場と民宿街が形成され、グリーンツーリズム、信越トレイルの拠点としても利用されています。近年は、なべくら高原・森の家も有名な観光地となっています。
- ・平成27年時点の人口は3,103人、世帯数は1,223世帯となっています。平成17年～27年の人口増減は-18.8%、世帯数増減も-4.6%であり、市内で最も人口減少が進んでいる地域です。また、平成27年時点の65歳以上人口割合は42.9%、15歳未満人口割合は8.3%となっており、市内で最も高齢人口割合が高く、かつ年少人口割合の低い地域です。

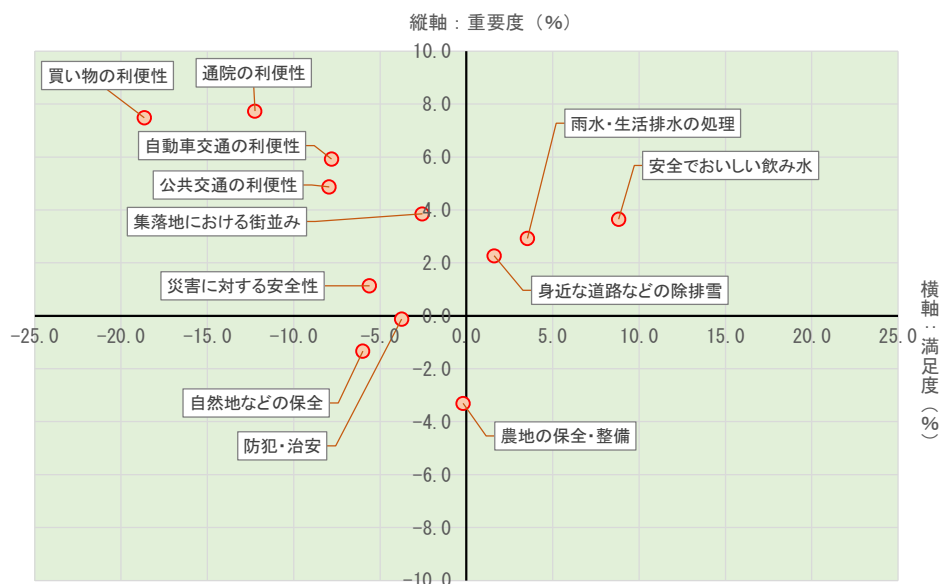
図 3-22 人口・世帯数の推移



(2) 地域住民意向

- ・令和元年6月に実施した市民アンケート結果では、生活環境に対する満足度が全体的に低くなっていますが、安全でおいしい水、雨水・生活排水の処理、身近な除排雪については他地域よりも満足度が高くなっています。
- ・また、買い物や通院の利便性、自動車交通や公共交通の利便性、集落地の街並み、災害に対する安全性などは、他地域より満足度が低く、かつ重要度が高くなっています。

図 3-23 太田・岡山地域の生活環境に対する満足度と重要度



(3) 地域のまちづくりの方向性とまちづくり方針

太田・岡山地域では、点在する集落のコミュニティ維持と、貴重な自然環境や優良農地の保全に努める一方、スキー場やグリーンツーリズムの拠点として国内外から多くの観光客を呼び込む拠点づくりを進めます。

【太田・岡山地域のまちづくりのテーマ】

観光や交流を柱に自然環境や田園環境を守り伝えるまちづくり

太田・岡山地域では、このまちづくりのテーマに基づき、今後、以下のまちづくりを中心に進めていきます。

① 関田山脈に広がる貴重な自然の保全

- ・ブナ原生林等の貴重な自然環境の保全
- ・観光やグリーンツーリズムと連携した森林資源の保全
- ・土砂災害警戒区域等を中心とした土砂災害対策の強化

② 自然体験型の観光拠点づくり

- ・戸狩温泉スキー場周辺における観光施設の集積
- ・「森の家」など、自然環境及び自然景観と調和する観光・レクリエーション施設の整備

③ 桑名川駅を中心とした生活拠点の維持・形成

- ・コミュニティの維持・形成を目的とした地域の公共施設の計画的な維持・更新
- ・生活拠点と飯山駅周辺を結ぶ公共交通の維持
- ・「小さな拠点」づくりによる生活サービス機能の維持
- ・空き家等を活用した定住・移住の促進

④ 中山間地における生活サービスの確保

- ・移動スーパー等の導入による買い物支援
- ・バス停や集会施設等までの移動手段となる一人乗り電動自動車等導入に向けた検討

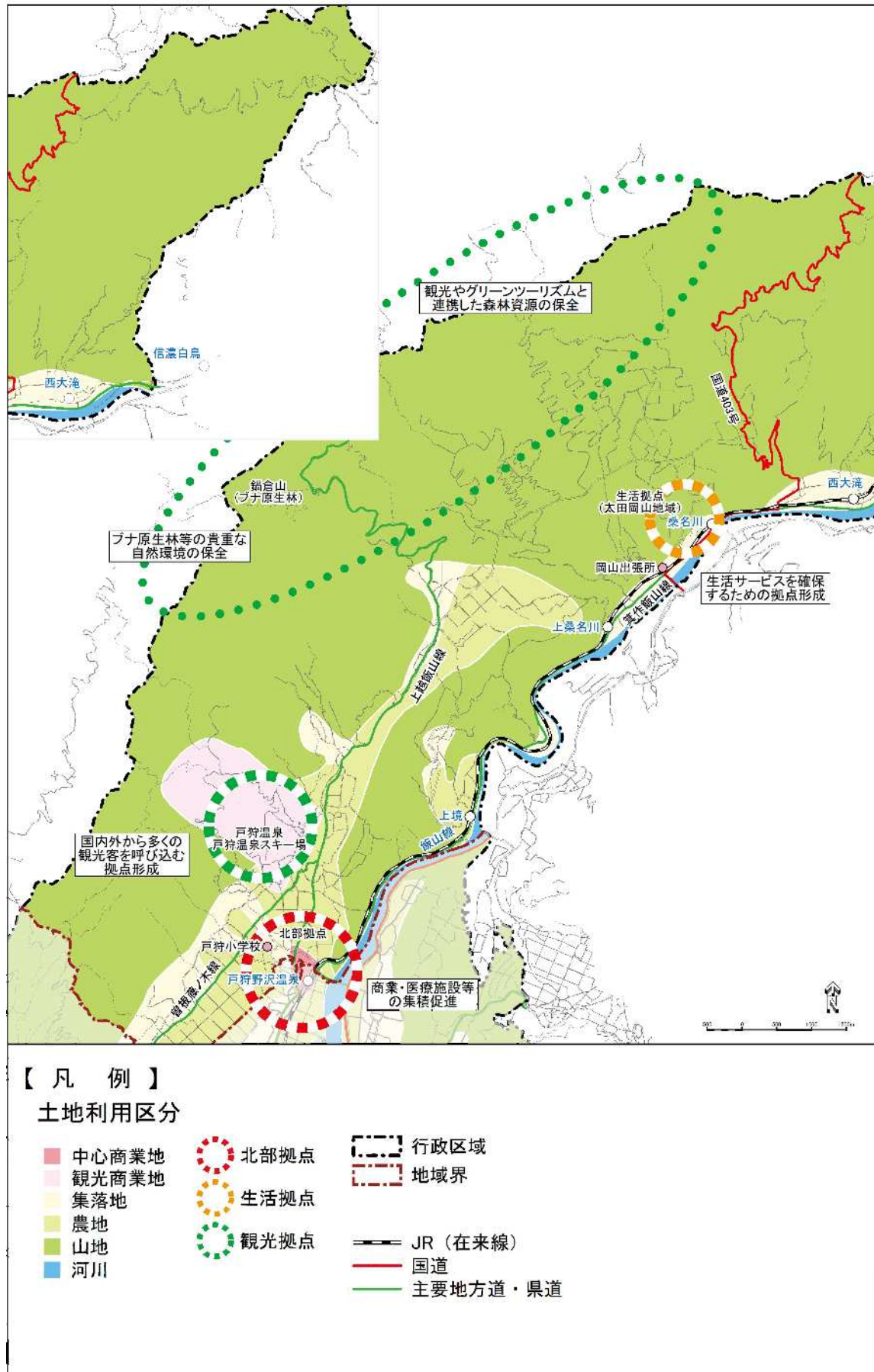
⑤ 地域の孤立防止のための道路整備

- ・緊急物資の輸送路及び避難路となる幹線道路の改良及び防災性向上
- ・冬季の幹線道路の除雪対策の維持

⑥ 市内北部全体の利便性を支える北部拠点の形成

- ・戸狩野沢温泉駅周辺における商業施設等の集積促進
- ・戸狩野沢温泉駅から野沢温泉など周辺地域に連絡する公共交通ネットワークの充実
- ・空き家等を活用した定住・移住の促進

図 3-24 太田・岡山地域のまちづくり方針図



【太田・岡山地域におけるまちづくりの取組】

◎「信越トレイル」



長野県と新潟県の県境に連なる関田山脈は標高 1000m ほど、冬は積雪 8m を越す豪雪地帯であり、原生に近いブナの森が広がります。森は雪融け水を蓄え、落ち葉は土を肥やします。森は命を育み、豊かな生態系を守りつつ、人々にもその恩恵をもたらします。

かつては信濃と越後をつなぐ要衝として数多ある峠道を入々が行き交い、海からは塩や海産物が、山からは伝統的工芸品の和紙「内山紙」や菜種油が運ばれました。ここには昔から人々の暮らしが息づいています。

この関田山脈のほぼ尾根上に延びるのが「信越トレイル」です。全長 80 km におよぶ日本有数のロングトレイルは、豊かな自然ばかりでなく、文化や歴史、人々の営みを感じられるのが特徴です。

グリーンシーズンは 5 月下旬から 10 月上旬、半年ほどのわずかな期間ですが、山は刻々と変化し、飽きることがありません。

オーストラリアやカナダからも歩きに来られる方もいるそうです。彼らにとって日本の森は豊かな植生がとても面白いようで、とくに日本の紅葉は素晴らしいと感じるのだとか。日本の美しい四季が、雪深いこの地には凝縮されているのです。

信越トレイルは 6 つのセクションに分かれ、それぞれを歩くのに 6 時間ほど要します。全線 6 ヶ所にテントサイトが設けられ、トレイル周辺には宿泊施設が点在します。5 歳と 7 歳の女の子が、テントや宿に泊りながら、7 日間かけてお父さんと全線踏破したこともあったとか。

(文章・写真は全て「飯山旅々 (vol. 2)」より引用)